

議事概要

会議名: 沖縄県におけるエイズ施策モニタリングに関する会議

日 時: 2025 年 12 月 15 日(月) 13:00～14:40

場 所: 沖縄県庁 保健医療介護部地域保健課 行政棟 3 階会議室

出席者: 仁平主幹(沖縄県地域保健課)

宮平技師(同上)

四本 美保子(東京医科大学病院 臨床検査医学科 准教授)

南 留美(九州医療センター 免疫感染症内科 科長)

平賀 紀行(九州大学泌尿器科)

古川 麻美(平賀班研究協力者)

【会議目的】

- ・ 沖縄県における動向調査報告と施策情報等のモニタリング
- ・ 沖縄地域のエイズ施策に関する意見交換

【確認事項】

- ・ 本研究班の調査協力への了解の意思を県に確認
- ・ 後日公表可能な資料を当班宛に送るとのこと
- ・ 本会議開催ののちに引き続いて今年度末の 2026 年 2 月に福岡市で西日本地区重点都道府県会議への参加協力の了解

【冒頭あいさつ(平賀より)】

- ・ 平成 28 年まで「重点都道府県会議」が開催されていたが、それ以降開かれていなかったため、平賀研究班が引き継ぐような形で会議を開催する
- ・ 当研究班は、各地域の動向や課題を横断的にモニタリングすることで、指針の指摘する課題や各地域の課題克服に資することを目的とする
- ・ 令和 7 年 11 月 10 日にエイズ予防指針が改正されたが、新指針の改正内

議事概要

容についてはこのあと四本より説明する

【改正エイズ予防指針について(四本より)】

- ・ 新指針の理念のもと、啓発や検査相談を行うにおいては郵送検査の実装や曝露前予防薬投与(PrEP)の整備、医療においては治療長期化に伴う長期療養に対する受け入れ体制整備等の課題克服が重要とされた
- ・ 人権の尊重についてはこれまで以上に重要視されている
- ・ 国や都道府県は地域の保健医療サービス従事者、介護従事者等に対して HIV に対する知識や制度の理解を深める取り組みを推進する必要がある

【議論内容】

○ 沖縄県の検査状況及びモニタリングの報告

- ・ 報告内容は重点都道府県等調査票を参照(別添)
- ・ エイズ対策に係る計画の策定は現在のところしていないが、今後作成に向けて調整する
- ・ HIV 感染者、エイズ患者の 9 割を男性が占め、そのほとんどが MSM 間の性的接触による感染で、過去3年間のいきなりエイズ率は4割台前半から6割程度と高い
- ・ 沖縄県内では梅毒患者は多い状態を維持しており、特に女性患者が増えている。属性についての調査は行っていない
- ・ 離島では保健所の検査を受検しにくいというプライバシー上の問題があり、その克服のためにも令和 7 年 12 月から HIV 及び梅毒の郵送検査を開始し、令和 8 年度以降は通年実施することによってできるよう予算要望している

○ 他の議論内容

(郵送検査について)

- ・ 保健所で検査を受ける際に HIV と梅毒の両方を受検するよう声をかけているが、「梅毒の検査はいいです」と断る人がいる。今後力を入れる郵送検査では HIV と梅毒がセットであるため、検査を両方受ける人が増えると予想
- ・ 現在の検査数はコロナ前の半数ほどに減少しているため、今後は郵送検査を幅広く実施し、期間限定で実施するワンコインキャンペーンは予算の状況も踏まえて対象を絞るなど検討していきたい

議事概要

- ・ コロナを踏まえた新興感染症対策など、昨今感染症対策に関する業務が増え、保健所の HIV 検査枠がコロナ前より減少しているため、郵送検査で検査数をカバーできるようになるのではないかと期待している

(医療体制整備について)

- ・ 人口も多く感染者も多い那覇市に拠点病院の選定がなく、南部や中部にある拠点病院に患者が分散している。現在、那覇市立病院が令和 6 年度に自立支援医療機関として患者の受け入れを始めている
- ・ 容体が安定した陽性患者を一般病院が受け入れられるように医療体制やネットワークの構築を進めていく必要がある
- ・ 宮古、八重山にも自立支援医療機関はあるが、離島で生活をする陽性者への支援をどうするかは引き続き課題
- ・ 施設が陽性患者を受け入れる際に過剰な感染対策を行い、患者側から拒否反応があったという事例も聞いている
- ・ 患者受け入れを行っている施設の方に講師になっていただき、介護施設向けの研修会を開催した(県が琉球大学病院に委託し配置している感染症コーディネーターが調整し、県が研修会を実施)
- ・ 中核拠点病院において専従のスタッフがおらず、県内の拠点病院からはこれ以上患者が増えると受け入れきれないという声が出ている。今後どう取り組んでいけばよいかなど、九州医療センターからの研修など相談させていただきたい。

(その他)

- ・ 沖縄には米軍基地があるが、軍属の在住者を起点に感染が広がっているという情報は把握しておらず、他地域同様 MSM が感染層の主体で梅毒とは感染層が違う
- ・ 患者や MSM 支援 NGO、歯科ネットワークなどと継続的な意見交換の場を持ち、連携していくことが全般的な課題
- ・ U=U をより広く周知していき、人権的配慮を推し進めることで、HIV 検査受検へのハードルをさらに下げていくことにつとめたい
- ・ 暴露前予防(PrEP)に関する幅広い広報や普及啓発にどう取り組んでいくか検討中
- ・ ここ数年 HIV 感染者が減少しエイズ患者が増加しているが、この期間に発

議事概要

見できなかった HIV 感染者が今後検査を受けて、あるいはエイズを発症し、報告数が一気に増えるのではないかと危惧している

- ・ エイズ予防指針の理念にもあるように患者を地域に分散させるという点では、琉球大学病院だけでなく南部や中部にある拠点病院でも広く患者を受けいれている状況であり、患者数が分散されている
- ・ しかし、今後、新規の患者の受け入れが困難となる可能性があるため、国には拠点病院への予算の配分や人材確保ができるような支援体制の構築をお願いしたい
- ・ 県の財政当局に予算要求する際に、指針以外で予算要求の根拠に使用しやすい分かりやすい根拠や資料を国から提示してもらえると、予算要求をさらにやりやすくなる